

# 隨泉寺寺報

平成 25 年（2013 年）3 月号 第 511 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

春季彼岸

映画 『東京家族』

■映画『東京家族』を見ました。内容は、子どもたちに会うために上京してきた夫婦と子どもたちとの再会や、そこで生まれる触れ合いやすれ違いを、三世代の登場人物を用いて描き出す人間ドラマです。

原作は、小津安二郎監督の『東京物語』（1953 年）をモチーフに、現代の東京に生きる“ある家族”の姿を描く感動ドラマ。瀬戸内海の小島（大崎上島）に暮らす平山周吉（橋爪）と妻とみこ（吉行和子）が、子どもたちに会うために東京へやって来る。しかし、日々忙しい生活を送る子どもたちはつれない態度を取ってしまう、というストーリーです。そこで描かれるのは“古き良き”ではなく、あくまでも“現代を生きる家族”の姿です。



「親の想いを受け継いでいく、親の気持ちを理解するのはなかなか難しい」「親であっても言えないことはある」「日常のことに手一杯で親のことを後回しにしている」など、現代の環境と重ね合わせ、美辞麗句では済まされない家族の現実に考えさせられました。

シビアな現実があるからこそ、家族をより大切に思えたし、母親、父親とも心をつなげたいと思ひ、親子で一緒に過ごせる時間に限りがあることを忘れず、親孝行をしたい、家族が抱える現実を見つめなおした上で改めて家族の大切さや絆を感じました。

家族の数だけ事情や環境は存在します。しかし、映画『東京家族』は、それぞれの世代が日ごろ忘れていた家族の存在や、これまで考えていなかった家族の大切さや絆を“自分のこと”として感じさせてくれました。

## 3月の法座予定

- 3月 2日 …………… 本部役員会
- 3月 10日 …………… 掃除 長者原西
- 4月 2日午後5時より …………… 門信徒会本部役員会

☆先日、2月9日18時40分のことであります。

隨泉寺の法灯を繋いでくれる男の子がこの世に誕生いたしました。名を「晃樹くこうき」と名付けさせていただきました。

予定日でありました1月30日より10日程遅れての出産になり、ご門徒の皆様にも心配をおかけいたしました。3,740グラムの元気な男の子が生まれ、母子共に元気であったことが何より安心し、本当に嬉しかったです。お母さんはお腹の中に赤ちゃんが宿ったその時から自分が母親であることを認識し実感するそうではありますが、私は生まれてくるまでは実感することがありませんでした。ですので、初めて赤ちゃんを抱いた時、何とも言えない命の重み、温もり、息遣いを感じたとき父親の責任を実感しました。



「晃樹」の「晃」という字は日の光と書きます。阿弥陀様は光の仏様といわれます。遍く十方を照らす阿弥陀様の智慧の光明は、私たちの道を照らして下さり、私たちを優しく包み込んでくださっています。阿弥陀様は私の歩むべき道を明らかにし、そして導いてくださる。この子には、やさしい光のように人々へとやさしく、そして人々を導くような人間に育ってほしい。そして「樹」という字には「根を張って立つ」という意味があり決してぶれない芯のしっかりした人に育ってほしい。このような思いから名付けさせていただきました。

私は「晃樹」が産まれてくる前から、名前をどうしようかと悩んでおりました。妻と一緒に考えている中で、名前には色々な願いを込めて名付けられているんだなあと改めて感じました。

いま、私たちがいただいている「南無阿弥陀仏」というお念仏、これは名号といひまして阿弥陀如来という仏様のお名前であります。この「南無阿弥陀仏」にもやはり願いがかけられています。

その願いとは「どうか我が名を称えておくれ、あなたを浄土へと生まれさせて仏と成らせた」という願いであります。私がいのちの問題について、いつか必ず悩み苦しむ姿を見抜いてくださりました。そして私の苦悩を取り除きたいとの思いから、「南無阿弥陀仏」という名号となって、声の仏様となってすでに私に到り届いてくださっているのです。私が願う前から、すでにこの私は阿弥陀様に願われている存在であったのです。

この度、名前を考えている中で「南無阿弥陀仏」の名号についても考えさせられたご縁をいただきました。親鸞聖人が生涯をかけて大事にされた「南無阿弥陀仏」のお念仏、先人の方々がそれを大事に繋いできたからこそ、今のこの私にもお念仏のみ教えが到り届いてくださっております。「晃樹」と共に南無阿弥陀仏とお念仏を称える日が待ち遠しいです。

今後は親子三人でお念仏の日々、聞法の日々を過ごして参りたいと思います。どうか隨泉寺のご門徒の皆様におかれましても、親子共々厳しく優しくお育てくださいますようお願いいたします。

若院 釈智哉

本願寺第24代門主 大谷光真様が、本願寺に念仏奉仕団で、参詣された方々にお話された御法話が、本になりましたので、毎月少しずつ転載いたします。

## 「どれほど道があろうと 自分が登るとなる 一つです」(平野修)

4月は入学式の時期です。本願寺へも、さまざまな学校の新入生がお参りにこられます。

第一志望の学校へ入った方もありますが、Aという学校に行こうか、Bという学校に行こうかと迷った方もあるでしょう。しかしどちらかに決めなければなりません。不本意ながらも、その学校以外選ぶことが出来なかった方もあるかもしれません。

そして、そのいずれもが、結を引き受けて生きていかなければなりません。そういう人生の区切の時に、本願寺に来てくださることは、まことに有り難いことです。合格のお願いに来られたのでは困ってしまいます。

与えられた条件、仏教的に言えば、恵まれたご縁の中で、人生をどのように生きるか、これはすべての人に与えられた課題です。

本当の依り所となるものに気付き、二度とない人生をこころ豊かに過ごしたいと思います。本当の依り所となるものとは、こちらの事情が変わったとって、取ったり捨てたりするようなものではなく、自分たちだけに都合の良いものではなく、いつでも、何処でも、誰にでも依り所とならねばなりません。

南無阿弥陀仏すなわち、阿弥陀如来さまに帰依しますとおっしゃられて、人々とともに歩まれた親鸞聖人のみ跡を慕い、一日一日を過ごさせてくださいませ。

大谷光真



## 20年後の自分への質問。

若院が子供を恵まれた記念に、今年のワインを買いたいと言っています。子供が無事成長してくれて、成人したら、一緒に飲むのだそうです。僕もぜひともそれに仲間に入れて欲しいと思います。しかし、市中で売っているワインは、20年も保存が利かないそうです。もちろん日本酒も腐ってしまいます。お酢になってしまいます。そんなことを考えていたら、そのときまで生きていられるのだろうかと思いました。

また20年後の日本はどうなっているのだろうかと考えました。

20年後の世界はどうなっていますか。世界は平和ですか。世界は安穩(あんのん)ですか。核兵器は減りましたか。戦争は起きていませんか。

20世紀の最後の10年で、大人は200万人の子どもを殺しました。21世紀のはじめ、不幸にして、人類はまた大きな戦争を起こしました。それから20年、人類は、怨(うら)みの連鎖を断ち切ることができましたか。

差と偏見は、まだなお多くの人を苦しめていますか。人類は、対立や差異を乗り越える叡智(えいち)を手に入れていますか。

環境問題は改善されていますか。



2011年3月11日東北地方の未曾有の大地震と津波が起きました。福島原発は大変なことになりました。エネルギー問題は解決しましたか。空気はきれいになりましたか。水は、緑はきれいですか。星はきれいですか。無(む)使いは減りましたか。「もったいない」という言葉は忘れられていませんか。科学技術は、信じられないくらい進んでいると思います。いまでも僕らの日常のスピードはどんどん加速しています。遺伝子工学の進展によるクローン技術とか、遺伝子組み換え食品とか、IPS細胞を使った再生医療とか、脳死・臓器移植問題とか、人工臓器とか、最先端の技術は、期待や希望、それよりももっと大きな不安を、いま私に抱かせています。人間がモノとして扱われてはいないかと。

20年後の日本はどうなっていますか。日本人は、「豊かさへの欲望」に自分をしばりつけることをやめていますか。21世紀のはじめ、日本では「勝ち組み」「負け組み」ということばが流行しました。「自己責任」「新自由主義」という旗の下で、人々はひたすら競争していました。日本人は、利潤だけを盲目的に追求し、格差を広げようとする社会の不健康さに気がつくことができましたか。子どもたちは生き生きとしていますか。子どもたちは外で元気に遊んでいますか。そして、子どもは親に愛されていますか。

20年後、生きていれば私は82歳になっています。

82歳の自分へ

あなたはどのような生きかたをしていますか。

夫婦は仲良くやっていますか。

どんな本を読んでいますか。

何か新しいことをはじめましたか。

つまらないことでくよくよしていませんか。

人の意見はちゃんと聞いていますか。

仏教の学びは続けていますか。

すこしは仏教がわかりましたか。

お念仏していますか。

お寺の境内の桜の花は、春になるとまたきれいな花を咲かせていますか。

